



スタート時は28万7千㎡ほど 開園面積の変遷

現在は約42万8千㎡まで拡張



【公益財団法人東京都公園協会所蔵】



開園当時の井の頭池
1917(大正6)年

井の頭恩賜公園は、1913(大正2)年、東京市が皇室御料地の御下賜を受けて日本最初の郊外型公園として整備し、1917(大正6)年5月1日に、東京市告示第51号により、28万7,047.77㎡を開園しました。その後の開園面積の主な変遷を紹介します。

- 1974(昭和49)年6月1日 開園面積33万8,308.10㎡
(西園の競技場やテニスコートを開設)
- 1981(昭和56)年6月1日 開園面積35万5,056.24㎡
(第二公園を開園)
- 1987(昭和62)年6月1日 開園面積36万3,296.47㎡
(三角広場の一部を開園)
- 1999(平成11)年6月1日 開園面積37万4,422.56㎡
(競技場南側の一部を開園)
- 2000(平成12)年2月1日 開園面積37万8,424.16㎡
(三鷹市立アニメーション美術館『通称三鷹の森ジブリ美術館』用地を開園)
- 2000(平成12)年6月1日 開園面積38万3,773.16㎡
(三鷹市立アニメーション美術館『通称三鷹の森ジブリ美術館』用地の南側を開園)
- 2014(平成26)年4月25日 開園面積41万1,891.82㎡
(第二駐車場を開園)
- 2014(平成26)年6月1日 開園面積41万9,502.34㎡
(野球場外周部分を開園)

2014(平成26)年9月1日に野球場部分を開園し、現在の開園面積は42万8,389.99㎡となっています。

問題



2014(平成26)年に西園の拡張工事が終了しましたが、この工事により開設された施設はどれでしょうか？

- ① 小鳥の森とプール
- ② 野球場と第二駐車場
- ③ テニスコートとサッカー場



2014(平成26)年4月に
オープンした第二駐車場

※井の頭恩賜公園は、『井の頭自然文化園』を公益財団法人東京動物園協会が、「その他の公園区域」を東京都西部公園緑地事務所が管理しています。
この頁でいう開園面積は、この両方を合わせた全体の公園面積です。

*解答: ②野球場と第二駐車場





145種9,465本 樹木の概要

園内で探してみよう



公園一ぜいたかのっほ° ヒマラヤスギ



井の頭恩賜公園※では、様々な樹木が四季折々の美しい風景を演出しています。それらの樹木のうち、高木（こうばく）についてご紹介します。

種類数と本数	
	145種 9,465本
針葉樹	21種 1,999本
落葉樹	90種 3,945本
常緑広葉樹	33種 3,294本
特殊樹	1種 227本

本数の多い樹種	
① サワラ	813本
② トウネズミモチ	721本
③ ヒノキ	615本
④ イロハモミジ	607本
⑤ ツバキ	601本

(2011(平成23)年3月末現在)

最も高い樹木▶ヒマラヤスギ(高さ) 36.0m [西園競技場東側]

最も太い樹木▶ムクノキ(幹周り) 3m93cm [狛江橋南側]

(2015(平成27)年3月末現在)

最も高い樹木や最も太い樹木、また本数の多い樹種などを園内で探してみてください。

問題



井の頭恩賜公園の中で
一番高い木はどれでしょうか？

- ① ヒノキ ② ヒマラヤスギ
③ イロハモミジ

公園一のふとっちょ ムクノキ



※ここでいう「井の頭恩賜公園」は井の頭自然文化園を除いた範囲です。

*解答: ②ヒマラヤスギ

生息に欠かせない環境 昔と今 環境と種類 (池の昆虫編)

水生昆虫が戻ってくるのに必要なことは？



解説



水草に産卵するギンヤンマ

撮影：高久 晴子

問題



かいぼり前の井の頭池で多く見られた、汚れた水にも比較的強い、白と黒のトンボは次のどれですか？

- ① ギンヤンマ
- ② コシアキトンボ
- ③ ハグロトンボ

オオヤマトンボ(左)とコシアキトンボのヤゴ



撮影：高久 晴子

汚れた水にも住める
コシアキトンボ



撮影：高久 晴子

昔の井の頭池では50種類以上のトンボが見られましたが、近年は20種類ほどに減っています。水草(水生植物)の消滅、水の汚染、外来魚の増加などが大きな原因です。

トンボがよく見られる場所は、岸の近くの、水草やヨシが生えているところです。トンボにとって水生植物はとても大事です。ギンヤンマやハグロトンボは、水草の茎の中に卵を産み付けます。水草がある場所はトンボの幼虫ヤゴの餌になる水中の生き物が多く、ヤゴの隠れ場所にもなります。成虫に羽化するときも足がかりになるヨシなどが必要です。

しかし、近年の井の頭池には水生植物がほとんどなく、増えた外来魚がヤゴの餌になる生き物やヤゴ自身を捕食していました。また、汚れた水には、きれいな水を好むトンボは生息できません。井の頭池で見られるのは、コシアキトンボやモノサシトンボ、クロイトトンボなど、ヤゴが比較的汚れた水の中でも暮らせる種類だけになっていました。コシアキトンボは産卵に水草を必要とせず、水面に浮かんでいるものに卵を産みます。

ゲンゴロウやミズスマシ、タガメやコオロシなどの水生昆虫もトンボと同じ問題が影響し、いなくなりました。

かいぼり25(p.65)の結果、外来魚が減り、水質が改善し、水草が生えてきたため、ヤゴや成虫の数が増えました。さらに池の環境が良くなれば、トンボや他の水生昆虫の種類も増えることでしょう。

*解答：②コシアキトンボ



繁殖している在来魚はごくわずか 井の頭池の生き物の現状

しかし、かいぼりの結果、改善も見られます

問題



オオクチバスや
ブルーギルが困った
影響を与えるのは、
どんなことでしょうか？

- ① 水草を食べてしまい、
人にも危害を加える
- ② 池の生き物を食べてしまい、
繁殖力もある
- ③ 水を汚染させ、水鳥にも
危害を加える



在来魚ウキゴリの稚魚

解説



昔の井の頭池には、ミヤコタナゴやムサシトミヨなど多くの種類の魚がすんでいました。しかし湧き水が枯れ、水質が悪化したため、多くが絶滅してしまいました。

近年の調査で繁殖が確認された魚は、在来魚のモツゴとトウヨシノボリとウキゴリ、昔は池にいなかったヌマチチブ、国内外来魚のギギ、特定外来生物のオオクチバスとブルーギルの7種だけでした。その他の魚が繁殖できなかったのは、大量の卵を産み繁殖力がとても強いオオクチバスとブルーギルに稚魚や卵が食べられてしまっていたからです。エビや水生昆虫も激減しました。また、草食魚のソウギョ（要注外来生物）が複数いて、水草が生えられない原因になっていました。コイも外来魚（飼育種）で、池の水を濁らせたり、他の生物を食べてしまったりなど、じつは大きな害がありました。

カメ類は、在来種のニホンイシガメとニホンスッポン、最近外来種と考えられるようになったクサガメ、そして要注外来生物のミシシッピアカミミガメなどの外来種がいました。ただしニホンイシガメは数が少なく、ほとんど繁殖できていません。

かいぼり25 (p.65) で外来生物を取り除いた結果、以前から繁殖していた在来魚の数が増え、ナマズも繁殖できるようになりました。その一方で、天敵のオオクチバスが減ったため、アメリカザリガニや、取り残したブルーギルが増え始めています。

生存が危ぶまれる
在来種のニホンイシガメ



かいぼりの結果生まれたナマズの稚魚



*解答：②他の生き物を食べてしまい、繁殖力もある



百周年には望ましい生態系を 池の外来生物問題の解決に向けて

みんなが力を合わせる必要があります



解説

共同イベント在来魚引越し

池の水質浄化を目指す団体と東京都西部公園緑地事務所により、井の頭恩賜公園 100 年実行委員会の「水と緑部会」が作られました。一方、外来魚問題を解決し池の生態系を再生することを目指す団体は、2008（平成 20）年度に西部公園緑地事務所と「井の頭外来生物問題協議会」を発足させ、外来魚駆除などの活動報告、情報交換、活動方針の協議などを毎月行ってきました。協議会には 2014（平成 26）年度現在、事務局の西部公園緑地事務所、井の頭かんさつ会、東京吉祥寺ライオンズクラブ、認定NPO法人生態工房、神田川ネットワーク、そして井の頭自然文化園の6団体が参加しています。

その結果、水質の浄化と生態系の再生は不可分であるとの認識ができ、水質浄化と外来種駆除を目的として、開園百周年までにかいぼりを2年度ごとに3回、100年実行委員会の主催で実施する方針が打ち出されました。それぞれ、かいぼり25、かいぼり27、かいぼり29と呼びます。

2013（平成 25）年度冬のかいぼり25で募集されたボランティア「井の頭かいぼり隊」はその後も活動を続けています。地域の学校が課外授業で活動に参加することもあります。今後さらに多くの団体や市民の活動への参加が望まれます。また、かいぼり後に再び外来魚が密放流されることがないように、官民が連携した監視・防除の体制作りも進められています。井の頭池の再生には、人間たちも含めた生態系を考える必要があります。

問題



井の頭池の外来魚問題の完全解決を目指して2年度ごとに実施されているものは次のどれですか？

- ① 大釣り大会
- ② 電気ショッカーによる捕獲
- ③ 池のかいぼり

井の頭かんさつ会の外来魚調査



活動を続ける井の頭かいぼり隊



*解答：③池のかいぼり



ついに実現！ かいぼりの実施

百周年までにもっと良い池に



解説



魚の捕獲のようす

2017（平成29）年までに3回行われる井の頭池のかいぼりの主目的は、水質浄化と外来種の駆除です。水を抜き、生き物を捕獲して外来生物を除去します。その後池底を大気と天日にさらして干すと、泥の中に溜まっている窒素分が化学変化して大気に出ていくため、その後の水質が改善します。そのほか、沈んでいるゴミの回収、護岸の改修、水生植物の再生なども目的です。その結果、生物多様性に富む池の生態系が回復し、自然の浄化能力で池底が見えるようになることを目指します。行政と業者だけで行うのではなく、地域ぐるみの事業として市民参加で実施することにしたのも重要な点です。かいぼり25には、井の頭外来生物問題協議会の参加団体のほか、かいぼりのために募集した、研修付きのボランティア「井の頭かいぼり隊」と半日ボランティア「お魚レスキュー隊」、近隣の学校の生徒など、多くの市民が参加しました。見学者が多数訪れ、マスコミでも全国に伝えられたため、波及効果は大きいものがありました。

かいぼり25では弁天池のかいぼりは見送られました。水を抜くと弁財天の島の護岸が崩れる恐れがあったからです。また、池干し期間中に大雪が二度も降り、底泥を干し上げることができませんでした。そのため、外来魚が残るなど、目的が十分達成できなかった点があります。2015（平成27）年度に弁天池の護岸を補強し、かいぼり27とかいぼり29ではすべての池をかいぼりする予定です。

問題



百周年までに
3回行われる井の頭池の
かいぼりの主な目的は
次のどれですか？

- ① 投棄物の除去と護岸改修
- ② 水質浄化と外来種の駆除
- ③ 底泥の除去と湧水復活

魚の仕分け所



かいぼりステーション



*解答：②水質浄化と外来種の駆除



改善した生態系

かいぼり25後の変化(生き物編)

しかし未解決の問題も



増えたモツゴ

解説



かいぼり25後の2014(平成26)年、水の透明度が大幅に改善しました。不完全ながら池底を干せたこと、底泥をかきまわすコイやアオウオを除去できたことなどが効果を上げたようです。天敵の魚が減ったためユスリカやトンボなど水生昆虫の幼虫が大量に発生し、成虫となって栄養素を池から運び出したのも大きいと考えられています。水生昆虫を餌にするモツゴやトウヨシノボリなどの在来魚が増え、魚を食べるカイツブリやカワセミなどの水鳥も生息数が増えました。また、底生の生物が増えたため、それまでほとんど潜水をしなかったキンクロハジロが盛んに潜水して餌を採るようになりました。池の生態系に大きな改善が見られたのです。

その一方で、かいぼりではほとんど捕獲できなかったアメリカザリガニが増殖を始めました。駆除活動にもかかわらず、ひょうたん池のアサザは葉を切られて壊滅しました。また、かいぼり時に水が抜けきらなかった場所で生き延びたり弁天池から逃げ出したりしたブルーギルが繁殖し、稚魚が大量に発生しました。それらの天敵でもあったオオクチバスが減ったからです。そのオオクチバスもかいぼりした池に残っていて、繁殖したことも確認されています。明らかにかいぼり後に放された、金魚やヒメダカ、タイリクバラタナゴなども見つかっており、近隣住民への啓発が足りないことも明らかになりました。未解決の課題は、かいぼり27、かいぼり29へ引き継がれます。

問題



かいぼり25の後に数が増え、ひょうたん池のアサザを壊滅させてしまった外来生物は次のどれですか?

- ① アメリカザリガニ
- ② ブルーギル
- ③ ミシシippアカミミガメ

増えたアメリカザリガニ



ザリガニのせいで壊滅した浮葉植物のアサザ



*解答: ①アメリカザリガニ



研究者も驚いた かいぼり25後の変化(水草編)

水質改善効果に期待



生えてきたイトモ



水生植物は、水面より上へ茎や葉を伸ばす抽水植物、水面に葉を広げる浮葉植物、全体が水中にある沈水植物、全体が水面に浮く浮遊植物に分けられます。水中や水底の栄養素を吸収して育つので、水質を改善する働きがあります。生長後に刈り取れば栄養素を池から運び出すことになり、池の富栄養化を抑えられます。水中に葉を茂らせる沈水植物は植物プランクトンを食べる動物プランクトンのすみかになるため、植物プランクトンが減って水の透明度が改善することも期待できます。

昔の井の頭池には何種類もの水生植物が見られましたが、近年は特定の場所に植えられたヨシやコウホネ(抽水植物)、アサザなどがあただけで、沈水植物は皆無でした。水生植物が消えたのは1960年代の渇水で枯れて撤去されたためで、その後生えなかったのは水が濁って日光が池底に届かなくなったためと、芽生えてもソウギョなどが食べてしまったからです。

ところが、2014(平成26)年、抽水植物のガマやミクリの仲間とサジオモダカ、沈水植物のイトモやヒロハノエビモ、セキシウモなどが突然生えてきました。かいぼり25で外来魚が駆除され、その後水の透明度も増したため、長年泥の中で眠っていた種子が発芽し生長したのです。それらを守るため、アメリカザリガニの駆除や、別の場所での栽培維持が行われています。泥の中にはその他の貴重な水生植物の種子が眠っていることも確認され、復活が期待されています。

問題



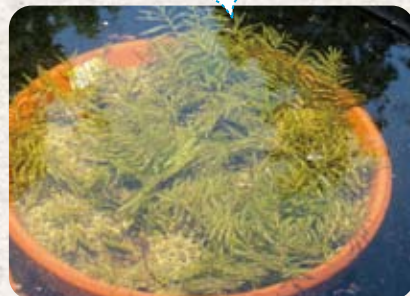
次のうち、かいぼり25後の
2014(平成26)年に井の頭池に
生えてきた沈水植物はどれですか?

- ① ヨシ(アシ)
- ② ヒロハノエビモ
- ③ ガマ

抽水植物のヨシ(2003年度植栽)



生えてきたヒロハノエビモ(栽培維持水槽)



*解答: ②ヒロハノエビモ



長崎県の対馬に100頭ほどしかいない希少種 ツシマヤマネコ

他の動物園と協力して飼育下繁殖に力を入れています



解説



初めて来園したツシマヤマネコ

国の天然記念物に指定されているツシマヤマネコは、アジアに広く分布するベンガルヤマネコの亜種で、長崎県の対馬にだけ生息しています。1960年代に250～300頭と推定された生息数は、2010年代前半には70または100頭と激減しました。

体はイエネコと同じかやや大きく、尾は太くて長く、耳の裏側に虎耳状斑と呼ばれる白斑があり、額にこげ茶の縞模様があるのが特徴です。主に単独で広葉樹の森にすみ、田んぼや畑で食べものを探し、日の出日の入り前後を中心に活動しています。

井の頭自然文化園では、2000（平成12）年からツシマヤマネコの近縁のアムールヤマネコの飼育を始めました。これまでに28頭の子どもが生まれています。この準備期間を経て最初のツシマヤマネコ、トラジロウ（オス）とサクラ（メス）が来たのは2006（平成18）年11月です。当時、ツシマヤマネコを飼育していたのは対馬野生生物保護センターと福岡市動物園だけでしたので、当園への来園は飼育繁殖とともに災害や感染症からの危険分散の意味もありました。その後も、オスとメスの相性をみながら、飼育園間でヤマネコを移動しました。井の頭自然文化園にはのべ9頭が来園し、現在（2015（平成27）年3月）3頭を非公開で飼育しています。

ヤマネコを前にしてのガイドや、対馬市と共催した「ヤマネコ祭」など、保全活動や飼育・繁殖についての普及活動にも力を入れています。

問題



ツシマヤマネコの生息地はどこですか？

- ① 沖縄県
- ② 長崎県
- ③ 北海道



2014（平成26）年に初めて人工授精で生まれたアムールヤマネコ



飼育係のガイド

大盛況のヤマネコ祭（2010（平成22）年）



*解答：②長崎県

コウモリと色鮮やかな鳥たち 仮設オオコウモリ舎

閉鎖した熱帯鳥温室のいきものが引っ越してきました



解説



オリオオコウモリ

1962 (昭和37) 年にオープンし、2013 (平成25) 年に51年の歴史に幕を閉じた熱帯鳥温室にいた鳥たちの多くは、上野動物園と多摩動物公園に移動しました。一部の動物が、ヤクシカ舎の隣に新しく作った仮設舎に残り、これからのこのこの主役をオリオオコウモリとしたことで、施設の名称は仮設オオコウモリ舎になりました。

オリオオコウモリは、南西諸島から台湾にかけて生息するクビワオオコウモリのうちの、沖縄本島と周辺の島々に生息する亜種で、開翼長 (両腕を広げた幅) が80cmを超える大きなコウモリです。井の頭公園周辺でも普通に観察できる小型のアブラコウモリは、超音波を出して、周囲の状況やカなどの食べものを探りますが、オリオオコウモリは超音波を使わず、目であたりを見ながら飛行し、果実や樹の葉を食べます。夜行性で、日中は皮膜で体を覆い、天井近くから逆さにぶら下がっていることが多いですが、エサを置く午後からは室内のライトを暗くして活発に動く様子を見られるようにしています。動物園でのエサは、パパイヤ、バナナ、りんご、にんじん、ぶどう、煮いも、スダジイの葉などです。

2014 (平成26) 年7月には、1頭のオスの子どもが誕生しました。生まれて半年程までは、子どもは母親に抱かれたままでしたが、やがて、自分でネットや止まり木にぶら下がるようになりました。

オリオオコウモリの他に、熱帯鳥温室で国内初の繁殖に成功したカンムリエボシドリや、フサホロホロチョウ、セイセイなどの色鮮やかな鳥たちがここでくらしています。

問題

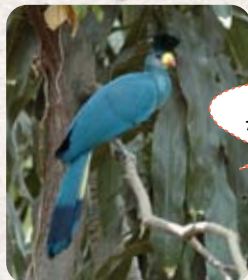


仮設オオコウモリ舎にいるコウモリの種類はどれですか？

- ① オガサワラオオコウモリ
- ② ヤエヤマオオコウモリ
- ③ オリオオコウモリ



オリオオコウモリの親子



存在感あるカンムリエボシドリ

*解答: ③オリオオコウモリ

少数が日本に飛来する貴重な鳥 クロヅル

アジアゾウのはな子に継ぐ長生きだった「イチコ」



推定56歳以上のイチコ

ユーラシア大陸北部で繁殖し、中国南部、インド、北アフリカなどで越冬する渡り鳥です。日本では鹿児島県出水地方が飛来地として知られており、毎年少数が飛来しナベヅルやマナヅルの群れに入って越冬しています。ナベヅルよりやや大きく、成鳥は翼を広げると2m近くにもなります。雌雄同色で前頭に赤い部分があり、眼の後方が白くなっていますが、頭頂から首にかけては黒く体全体も黒または灰色です。

長年来園者に親しまれてきたクロヅルの「イチコ」が2015（平成27）年4月9日に心不全により死亡しました。推定56歳の長生きでした。

イチコは1959（昭和34）年にオスの「キュー」とともに来園しました。「キュー」と「イチコ」という名前は、9月15日の敬老の日にちなんだ当園でつけたものです。このペアは、1969（昭和44）年に国内動物園のクロヅルとしては初めて繁殖し、16年間に9羽のヒナを育てました。キューは2002（平成14）年に先に死亡しました。晩年のイチコは嘴が少し曲がってしまい、生きた魚はほとんど食べなくなったためツル用の固形飼料（ペレット）、ニワトリのエサ、パンを与えていました。現在、クロヅルは動物園の大放飼場で2012（平成24）年に来園したメス1羽を展示しています。

問題

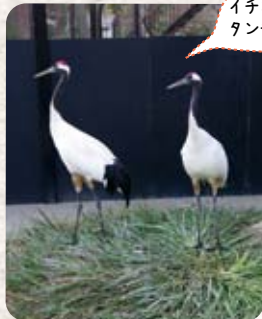


クロヅルの「イチコ」は、
どうしてこのような名前が
ついたのでしょうか？

- ① 一番大きくなるように願ってつけられた
- ② かつての敬老の日の「9月15日」からイチコとつけられた
- ③ イチゴが好きだからつけられた



イチコがくらししたクロヅル舎



イチコの隣のケージには
タンチョウのペアがいます

*解答：②かつての敬老の日の「9月15日」からイチコとつけられた

大人にも子どもにも好評！ オリジナルクイズラリー

クイズを楽しみながら動物をじっくり観察できます



解説



大人も子どもと一緒に楽しめるクイズラリー

井の頭自然文化園では、開園記念日(5月17日)がある5月、夏休み、冬休みなど、そのときどきごとにテーマをもうけてクイズラリーを開催しています。参加者は冊子を手に園内の動物舎をめぐりながらクイズに挑戦します。クイズの内容は知識を問うものではなく、極力実際の動物を観察すればわかる内容にしています。参加者に動物をじっくり観察してもらうことがねらいです。

2009(平成21)年からの夏のクイズラリー「日本の動物と妖怪」シリーズは、大人の妖怪ファンを巻き込むほど好評でした。2013(平成25)年からは「動物園怪談画劇」シリーズが始まり、井の頭自然文化園にまつわる、さまざまな創作怪談を読みながら園内をまわってもらっています。お正月には、寅年の「トラジロウめぐり」、卯年の「みみたんけん」、辰年の「ぶんかえん龍伝説」、巳年の「あしウォッチング」、午年の「午馬ウマ」、羊年の「ヒツジ牧場をつくろう!!」など、その年の干支の動物を取り上げたクイズラリーを行っています。「日本の動物と妖怪」と「動物園怪談画劇」では妖怪造形家の天野行雄、「トラジロウめぐり」では漫画家のいましろたかし、「ぶんかえん龍伝説」では絵本作家のよしながこうたくなど、人気作家を起用した書き下ろしイラストも、クイズラリーの楽しみのひとつとなっています。

問題



2013(平成25)年の正月に実施した巳年にちなんだクイズラリーはどれでしょう？

- ① あしウォッチング
- ② 舌ウォッチング
- ③ うろこウォッチング

スタンプここに押すのかなあ



みんなほしがりそう
これまでのラリーブック



こんな問題が出ます
「日本の動物と妖怪」

*解答: ①あしウォッチング

国境を越えた交流

三鷹国際交流フェスティバル(井の頭恩賜公園西園)

ステージも屋台も売店も、家族揃って楽しめます



毎年変わるバラエティ豊かな演出

解説



毎年秋、西園を会場に「三鷹国際交流フェスティバル〜MISHOP WORLD」が開催されます。世界各国の食物の屋台、雑貨の売店、大使館やNGO・NPOの展示などのテントショップが軒を連ね、特設ステージで各国の歌や踊りが披露される賑やかな1日になります。

今では延べ4万人が集う盛大な祭典として定着しているこのイベントは、1990（平成2）年にスタートしました。主催する『三鷹国際交流協会』（ミショップ）は1989（平成元）年に創立され、2012（平成24）年に公益財団法人となりました。国籍を越えて楽しみながら交流と理解を深めることを目的とし、ウォークラリー、世界の料理体験、国際理解講座など多様な活動を展開。フェスティバルに関しては毎年4月から10月まで実行委員会を開設し、企画・準備、当日の運営などを担っています。

MISHOPは外国籍市民へのサポートにも力を入れていて、日本語教室や子ども教室などへの支援活動や、会員による日本語のマンツーマンレッスンもしています。外国人との交流を通して多文化理解を深めたい方なら誰でも活動に参加できます。

問題



毎年秋に西園で開催される「三鷹国際交流フェスティバル」を主催する団体の通称は？

- ① MISHOP ② MISOP
- ③ MIFESS ④ MITAFESS



さまざまな国の踊りも。

【いずれも写真提供：三鷹国際交流協会】



information

公益財団法人 三鷹国際交流協会（MISHOP）事務局
〒181-0013 三鷹市下連雀3-30-12
三鷹市中央通りタウンプラザ4F
TEL：0422-43-7812